

「毎日農業記録賞」優秀賞作品紹介

昨年、毎日新聞社などの主催による「毎日農業記録賞」において、雨乞の高見幸雄さんの作品が、見事優秀賞に輝かれました。

そこで、高見さんの貴重な体験が記された内容をご紹介します。

開拓地の半世紀と私の苗木作り

戦後間もない昭和20年から21年にかけて約41万人の人々が外地から引き上げて祖国への第一歩を踏んだ山口県長門市の仙崎港。

その仙崎の町を遙かに見下ろす隣町日置町の高台に、私たちの住む小さな集落雨乞地区があります。50数年前にこの仙崎に朝鮮・中国方面から帰国した全国各地の出身者の家族10戸ほどが、開拓に着手したのが、今の雨乞自治会の始まりでした。

*開拓時代の生活

当時私は小学校の1年生、父母と姉の4人でこの地に入植しました。父は富山県、母は広島県の出身で、農業の経験は全くありませんでした。入植はしたものの、人里離

れた寂しい所での生活不安と原野を手作業で切り開き、開墾に明け暮れる過酷な肉体労働に耐えきれず、あるいは他に行き場所のある比較的恵まれた人だったのかは分かりませんが、短期間で離農して行く者もありました。また、その一方で、2、3年遅れて入植した人を含めて入植5、6年後には、開拓農家として一応の目処が立つ程度までにごつた者は8戸であったと記憶しています。農地も一応造成し、作物からの収入もあるようになるようになりましたが生活そのものは今から思えば大変悲惨なものでした。住居は掘立て小屋で、穴を掘って近くにある立木を切って立てて柱にし、茅や小笹で屋根や側壁をつくり、床は竹を並べて野生のつるで編んでつくります。資材を買う金もなく、たとえあっても3kmの急傾斜の山道を担ぎ上げることも出来なかつたのでしよう。角材や板はもちろん、わら縄も使わずに全部自然の材料をそのまま使つて作り上げたものです。もちろん長くは使えませんが、我が家では昭和26年プロの大工さんに手伝ってもらつて建てた間仕切りの家に移るまで

に3回ほど建て替えました。開拓地内には、下の集落の水田に使う大きなため池がいくつかあり、その池の近くに小屋が点在していました。飲み水も、洗濯も、風呂の水も、子どもの水遊びも、この池のお世話になりました。当時は山の静かな湖といった感じのきれいに澄んだ水でしたが、周囲に畑が広がるにつれて、今では大分汚れてきており残念です。開拓用地として払い下げられた土地は、離農した人の土地を再分配したり、便利のよいように交換分合して、最終的には3ヘクタールほどになります。しかし、急斜面や大きな石が多い場所もあり、耕地に出来ない悪条件の所が半分以上ありました。鉋と鋸と鉄だけで木を切り、根を掘り起こし、石を運び出す作業は、筆舌では表現できません。近くに親戚知人もいない人たちの集まりですから、いざ怪我人だ、病人だといふときに頼れるのは、近くの同志だけであつたせいでしようが身内以上のつながりの深さを感じました。また、開拓を続けた先輩達は、それぞれに強い意志と行動力を持った人たちでしたから、営農方針などで話し合う時などは、その議論の激しさに側で聞いている私などは大丈夫だろうか、と狼狽

える程でした。いまでもあの時の顔を懐かしく想い出されます。戦後の暮らしの厳しさは、どこも同じであつたかとも思いますが、道もなく電気もなく畑を耕す道具もない中

日置農高 スクール通信

4月の行事予定

4月9日(月) 始業式・着任式

入学式

4月13日(金) 離任式

その他の行事

各種健康診断(歯科・眼科・耳鼻科・胸部撮影・心電図・検尿)・長北大会(陸上・卓球・バレーボール・ソフトテニス・剣道)・スポーツテスト・PTA役員会・防火訓練
このように、新学期早々は行事、大会等が日白押しです。農場には桜の森があります。ソメイヨシノ、枝垂桜、楊貴妃の3種です。見頃は4月上・中旬です。草花(サイネリア)、野菜(各種苗の育苗)

で、家族を守りながら原野を開拓し50年余の生活の基礎作り血と汗を流した先輩たちの苦勞を思う時に、身の引き締まる感慨を覚えます。(5月号へ続く)

を栽培しており、今年度の直売所の開始は5月下旬の予定です。

つぎに、最近のボランティア部の活動を紹介します。

1月26日のインド西部の大地震のニュースを知った日置農高ボランティア部と生徒会役員は、被災者に何か手助けできることはないかと話し合い、募金活動を行いました。

ボランティア部は2月3日にウェーブ、17日にフジで、生徒会役員は農高校門で、一人でも多くの人々が助かるようにと願いながら、募金をつのりました。その結果、多額の義援金が集まり、日本赤十字社に託すことができました。

この募金活動を通して生徒たちは、人々の心の温もりや地震に対する関心の強さを痛感したことでしょう。この体験活動をもとにこれからまた新たなボランティア活動に意欲を燃やしてくれることを願うばかりです。

最後に募金に協力していただいた皆様に心から感謝します。ありがとうございました。

